

いのちの大切さを考える絵本（幼児～小学生向け）



「みとめあうってすてきだね」(2)

読み聞かせを楽しみながら いのちの大切さを考えてみませんか？

市内5つの図書館で借りられます。



東村山市立図書館

きみなんかだいきらいさ ジェームズ・メイ・エドリー／ぶん モリス・セダック／え こだまともこ／やく 富山房

ジェームズとぼくは、いつも仲良しだった。でも、今日はちがう。「ジェームズなんかだいきらいさ」。いばりたがるし、クレヨンが1本もかしてくれないんだ。

と・も・だ・ち ロブ・ルイス／さく まつかわまゆみ／やく 評論社

新しい家に引っ越してきたアンディは、友だちをたくさんつくるつもりです。でも、いろんな子に会いましたが、誰も好きになれません…。

ペカンの木のぼったよ 青木道代／ぶん 浜田桂子／え 福音館書店

みっちゃんとりんちゃんはとっても仲良し。りんちゃんは赤ちゃんのとき病気をしたので、体を動かしたり、お話をするのも難しいのですが、みっちゃんのお話をよく聞いてくれるのです。ある日、みんなが木に登っているのを見て、りんちゃんも木登りがしたくなりますが…。

おとうさんといっしょに 白石清春／さく いまきみち・西村繁男／え 福音館書店

あきくんは、今日はお父さんと一緒に保育園に行きます。お父さんは脳性小児まひという障害があるため、電動車椅子に乗っています。あきくんは、お父さんのひざに乗って、保育園に出発しました。あきくんの気持ちが伝わってきます。

ローザ ニッキ・ジョヴァンニ／文 ブライアン・コリアー／絵 さくまゆみこ／訳 光村教育図書

その頃のバスは、前は白人の席、後ろは黒人の席と決まっていた。黒人のローザはどちらがすわってもいい中間の席にすわりました。でも、運転手に「席を白人にゆずりなさい！」とどなられたのです。「はだの色がちがっても、みんな同じ人間…」ローザは、席をゆずるのをやめ、差別に立ち向かいました。50年以上前のアメリカでほんとうにあったお話です。

ぼくのものがたり あなたのものがたり 一人種についてかんがえよう

ジュリアス・レスター／文 カレン・バーバー／絵 さくまゆみこ／訳 岩崎書店

人間はだれでも、「ものがたり」をもっている。はだの色が何色か、いい場所に住んでいるか、お金をたくさんかせぐか…そんなことは、ほんとうの「ものがたり」じゃないよね。

ええやん そのままで トッド・パール／作 つだゆうこ／訳 解放出版社

「ええやん あかんことはあかんて いいあえるともだち」「ええやん はずかしくても それオッケー」カラフルな絵で、ありのままにいいよと伝えてくれます。